



2027年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2026年8月3日

上場会社名 持田製菓株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <https://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 宮本 憲一

TEL 03-3358-7211

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無 : 無

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	31,719	19.1	3,564	38.5	4,187	50.5	3,178	67.8
2026年3月期第1四半期	26,631	4.8	2,572	17.5	2,783	17.6	1,894	21.8

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 1,702百万円 (9.2%) 2026年3月期第1四半期 1,875百万円 (121.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	89.77	—
2026年3月期第1四半期	53.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	181,422	140,293	77.3
2026年3月期	182,720	140,326	76.8

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 140,293百万円 2026年3月期 140,326百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	40.00	—	40.00	80.00
2027年3月期	—	—	—	—	—
2027年3月期(予想)	—	42.50	—	42.50	85.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	126,000	7.7	10,500	3.5	12,500	11.6	10,000	26.5	282.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2027年3月期1Q	36,390,000 株	2026年3月期	36,390,000 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2027年3月期1Q	1,036,263 株	2026年3月期	940,363 株
------------	-------------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2027年3月期1Q	35,407,904 株	2026年3月期1Q	35,450,466 株
------------	--------------	------------	--------------

添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
3. 補足情報	9
(1) 主要製品の売上高	9
(2) 医薬品等開発状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

国内医薬品業界においては、薬価改定が毎年実施される等、厳しい事業環境が続いています。原材料価格の上昇を始めとするコストの増加傾向も継続しています。

当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）は、企業理念として掲げる人類の健康と福祉への貢献という普遍的使命のもと、事業活動を展開しています。2022年度には、持続的成長の実現に向けて当社グループが目指す姿である「2031年のありたい姿」を策定しました。さらに、2025年度には、この実現に向けた「成長戦略加速の3年間」と位置づける25-27中期経営計画を策定し、「コア事業の収益力強化」「成長事業の継続投資」「成長を支える経営基盤強化」を重点テーマとして取り組んでいます。

当第1四半期連結累計期間における医薬品関連事業は、引き続き、循環器、消化器、産婦人科、精神科を重点領域として、主力製品を中心とした情報提供活動を積極的に展開しました。また、ヘルスケア事業は、皮膚科医・産婦人科医や看護師等の高い支持を基盤に、マーケティングの推進に努め、市場開拓を図りました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は31,719百万円で前年同期比19.1%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業は薬価改定の影響を受けたものの、主に新薬が伸長し、売上高は29,442百万円で前年同期比19.1%の増収となりました。新薬の売上高は前年同期を上回りました。潰瘍性大腸炎治療剤リアルダ、慢性便秘症治療剤グーフイス、痛風・高尿酸血症治療剤ユリス、肺動脈性肺高血圧症・間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤トレプロスト及び潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤オンボーが伸長しました。長期収載品の売上高は前年同期を下回りました。バイオシミラーを含む後発品の売上高は前年同期を上回りました。

ヘルスケア事業の売上高は2,276百万円で前年同期比18.6%の増収となりました。抗真菌成分配合のシャンプー・石鹸をはじめとするコラージュフルフル及び基礎化粧品コラージュリペアの両ブランドにおいて売上高が伸長しました。

次に当第1四半期連結累計期間の利益面につきましては、医薬品関連事業の売上高増加に伴う売上総利益の増加により、営業利益は3,564百万円で前年同期比38.5%の増益となりました。また、アンドファーマ株式会社に係る持分法投資利益の計上等により、経常利益は4,187百万円で前年同期比50.5%の増益となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は3,178百万円で前年同期比67.8%の増益となりました。

研究開発の状況として、研究面では、今後成長が見込まれる新たなモダリティを取り込み、創薬パイプラインの充実を図っています。核酸医薬については、競争優位性を念頭にsiRNA医薬の創薬研究に集中的に取り組んでおり、高度な専門性を有する人財の確保や、創薬技術の獲得を積極的に進めています。細胞医薬については、再生医療の知見・技術を有する企業と提携し、乳歯歯髄幹細胞SHED、高純度間葉系幹細胞RECによる治療法の開発を進めています。

臨床開発面では、ユリスについて、2026年7月に小児の用法・用量追加の承認申請を行いました。肺高血圧症治療剤（吸入粉末剤）MD-712は製造販売承認申請中です。造血幹細胞移植後の非感染性肺合併症の治療を目的とした細胞医薬品HLC-001は、臨床第Ⅲ相段階にあります。月経困難症治療剤MD-352は臨床第Ⅱ/Ⅲ相段階にあります。

次世代の柱の一つと位置づけるバイオマテリアル事業においては、海綿体神経損傷治療材dMD-002及び癒着防止材dMD-003は検証的治験段階にあります。米国において開発を進めている海綿体神経損傷治療材dMD-002は探索的治験段階にあります。

当第1四半期連結累計期間の研究開発費は2,470百万円となりました。

(2)財政状態に関する説明

当社グループの当第1四半期連結会計期間末の総資産は181,422百万円となり、前連結会計年度末比で1,298百万円減少しました。

資産の減少は、主に長期前払費用が増加したものの、その他流動資産に含まれる仮払金や現金及び預金が増加したためです。負債の減少は、主にその他流動負債に含まれる未払費用が増加したものの、賞与引当金や未払法人税等が増加したためです。純資産の減少は、配当金の支払いがあった一方で親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したものの、その他有価証券評価差額金の減少や自己株式の取得があったことによるものです。

(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間はほぼ計画に沿った業績で推移しているため、2026年5月15日に公表した連結業績予想から修正は行っていない。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,064	25,415
売掛金及び契約資産	36,478	37,288
有価証券	2,993	2,992
商品及び製品	20,126	19,222
仕掛品	2,511	2,989
原材料及び貯蔵品	13,484	13,908
その他	15,362	4,484
流動資産合計	119,021	106,303
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,520	6,426
機械装置及び運搬具（純額）	1,582	1,529
土地	6,046	6,046
その他（純額）	2,152	2,208
有形固定資産合計	16,302	16,210
無形固定資産	1,121	1,046
投資その他の資産		
投資有価証券	39,228	37,295
退職給付に係る資産	699	692
長期前払費用	5,068	18,340
繰延税金資産	820	1,081
その他	458	452
投資その他の資産合計	46,275	57,862
固定資産合計	63,699	75,119
資産合計	182,720	181,422

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,779	10,213
電子記録債務	998	994
未払法人税等	2,970	1,805
賞与引当金	2,409	1,061
その他の引当金	165	109
その他	11,411	12,788
流動負債合計	27,734	26,972
固定負債		
長期借入金	10,000	10,000
退職給付に係る負債	3,337	3,345
その他	1,322	811
固定負債合計	14,659	14,156
負債合計	42,394	41,129
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	121,251	123,012
自己株式	△3,270	△3,587
株主資本合計	127,081	128,525
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	12,412	10,994
為替換算調整勘定	△30	△25
退職給付に係る調整累計額	861	798
その他の包括利益累計額合計	13,244	11,768
純資産合計	140,326	140,293
負債純資産合計	182,720	181,422

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月 1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月 1日 至 2026年6月30日)
売上高	26,631	31,719
売上原価	13,005	17,031
売上総利益	13,626	14,688
販売費及び一般管理費	11,053	11,123
営業利益	2,572	3,564
営業外収益		
受取利息	15	14
受取配当金	236	283
持分法による投資利益	—	377
その他	33	37
営業外収益合計	285	713
営業外費用		
支払利息	0	43
持分法による投資損失	18	—
為替差損	49	43
その他	6	3
営業外費用合計	75	90
経常利益	2,783	4,187
特別利益		
投資有価証券売却益	—	687
特別利益合計	—	687
特別損失		
固定資産除売却損	0	0
固定資産撤去費用	—	9
特別損失合計	0	9
税金等調整前四半期純利益	2,782	4,866
法人税等	888	1,687
四半期純利益	1,894	3,178
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,894	3,178

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月 1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月 1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	1,894	3,178
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	19	△1,448
為替換算調整勘定	—	5
退職給付に係る調整額	△37	△54
持分法適用会社に対する持分相当額	—	22
その他の包括利益合計	△18	△1,476
四半期包括利益	1,875	1,702
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,875	1,702

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

当社グループの報告セグメントは、医薬品関連事業のみであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月 1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月 1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	696百万円	730百万円

3. 補足情報

(1)主要製品の売上高

主 要 製 品 の 売 上 高

(2027年3月期 第1四半期実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 2026年3月期		当 期 2027年3月期		対前年 同期 増減率
	第1四半期 実績	年間 実績	第1四半期 実績	年間 見込	
潰瘍性大腸炎治療剤 リアルダ	40	168	46	174	+ 15%
慢性便秘症治療剤 グーフィス	22	90	23	97	+ 7%
痛風・高尿酸血症治療剤 ユリス	13	63	17	73	+ 37%
肺動脈性肺高血圧症・ 間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤 トレプロスト	13	61	17	70	+ 31%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	11	46	11	53	+ 1%
血液凝固阻止剤 ヘパリンNa	3	14	4	17	+ 16%
潰瘍性大腸炎治療剤 コレチメント	1	6	1	8	+ 11%
後発品 (内、子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤ジェノゲスト)	77 28	351 122	104 31	427 131	+ 35% + 13%
スキンケア製品	19	79	22	83	+ 19%

・億円未満切り捨て、増減率は切り捨て前の数字で計算

・トレプロスト：トレプロスト吸入液、及びトレプロスト注射液を含む

・エパデール：エパデールEM、エパデールS、及びエパデールカプセルを含む

(2)医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

【医薬品】

開発コード 〈一般名〉 [製品名]	開発段階	予定適応症	剤型	備考
MD-712 〈トレプロスチニル〉	承認申請	肺動脈性肺高血圧症 間質性肺疾患に伴う 肺高血圧症	吸入 粉末剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発
* FYU-981 〈ドチヌラド〉 [ユリス]	承認申請	痛風・高尿酸血症 (小児適応)	経口剤	(株)富士薬品と共同開発 ※2026年6月当社がユリスの製造販売承認を承継
HLC-001	臨床第Ⅲ相	造血幹細胞移植後の 非感染性肺合併症	注射剤	細胞医薬品 ヒューマンライフコード(株)と共同開発
MD-352 〈ジェノゲスト製剤〉	臨床第Ⅱ/Ⅲ相	月経困難症	経口剤	自社開発

【医療機器】

開発コード 〈製品名〉	開発段階	予定する使用目的 又は効果	備考
dMD-002	検証的治験	海綿体神経損傷修復	アルギン酸シート 自社開発
dMD-003	検証的治験	術後の癒着防止	アルギン酸シート 自社開発
dMD-002	探索的治験	海綿体神経損傷修復	開発地域:米国 アルギン酸シート 自社開発

医療機器の臨床試験に関する開発段階を探索的治験と検証的治験に区分しています

* 2026年3月期決算短信(2026年5月15日公表)からの変更点